



東京の会通信

No.288

2020年1月1日号
(隔月1日発行)

発行：骨髄バンクを支援する
東京の会

〒162-0065 東京都新宿区
住吉町10-8 第1菊池ビル302号

TEL：03-3354-6377
(FAX兼用)



<http://www.marow.or.jp/tokyo/>
e-mail:marow_tokyo@yahoo.co.jp

定価 100円

大勢の若い方の参加で、 より活発な活動を



東京の会の皆さま、東京の会の会報を読まれている全国の皆さま、あけましておめでとうございます。令和になって初めての新年ですがお元気で過ごしてはいかがでしょうか。

今期も東京の会は総会で決定された方針のもと、活動を活発に行っています。その中心は何といても、有楽町・新宿駅前の献血ルームでのドナー登録推進活動です。昨年度は495名の登録がありました。今年度は18回の登録推進活動が進行中であり、さらに、この活動は自治体の献血並行登録会にも広がりがつあります。

献血ルームにおいては、ルーム側の配慮により、活動が今まで以上にスムーズに行えるようになっていきます。会員の中にも、説明員の資格を有する方が増えてきております。また、東京の会の働きかけもあり、今年度(11月)に東京都による説明員養成講座が初めて開催されました。関係先との調整や、当日の声掛け、説明など、労力のかかる大変な活動ではありますが、年度が終わった時に何人の登録者になっているのか楽しみです。

平成26年に始まった東京都のドナー支援制度は、23区25市2町で実現し、私たちの活動としては、ほぼやり切ったと評価できますが、多摩地区の1市1町1村と島しょ部が実現に至っておりません。小さな自治体では、実現するための条件に様々な限界もあり、制度化は困難と思われる地域も存在していますが、住民に対する公平性の観点からも、全都での実現に向けて行

日本骨髄バンクの登録患者と検査済登録ドナー (令和1年11月末日現在)

	ドナー(全国)	ドナー(東京)	患者(全国)
登録者累計	528,161	66,249	58,086
10-11月登録分	8,635	1,483	482
10-11月抹消数	3,587	435	—
実質登録増	5,048	1,048	—

政側の特段の判断が求められるのではないのでしょうか。東京の会としては、来年度から東京都に居住しているすべてのドナーに対してこの制度が適用されるよう願っています。

他にも、東日本大震災への復興イベント、東京マラソンでのランナー応援活動、職場内での講演活動、スノーバンクでの千葉、埼玉、神奈川の皆さんと協同の献血並行登録会、長年取り組んでいるチャリティコンサートや品川宿場まつり、新宿熊野神社のお祭りへの参加等々旺盛に取り組みを行いました。

これらの活動は今までに活動を支えていただいた方が中心であることは変わりありませんが、今年度は事務局次長に30代の方が就任するなど、若い方たちの参加も増えてきているのかな、と評価しています。

そして、毎年活動のスタートとして、今年も1月2、3日と「骨髄バンク」ののほりを振りながら箱根駅伝を応援します。田町駅前で東京の会からのべ18名が参加し、沿道でののほりを持ちますので、テレビでよくご覧ください。

新年に当たり、皆さまが元気で活動できることを願います。また、今まで東京の会の活動を支えてくださった方々とともに、とりわけ20代から40代の皆さまに、旺盛な活動への参加を心から呼びかけまして、新年のご挨拶といたします。

2020年元旦 骨髄バンクを支援する東京の会代表
三瓶 和義

患者とドナー登録・適合状況(11月末日現在)

ドナー登録受付者数(累計)	815,251人
ドナー登録抹消者数(累計)	287,090人
HLA適合報告ドナー数(累計)	388,510人
実質登録患者実数(現在)	1,960人(国内1,304人)
HLA適合患者数(累計)	46,193人(患者累計数の79.5%)
非血縁移植実施数	23,868例(10-11月実施240例)

西東京市で献血並行登録会を連続開催

～東京の会の新たな活動展開～

東京の会ドナー登録推進担当・日本骨髄バンク地区普及広報委員 松下倫子

東京の会では長年に渡って、都内の献血ルームでドナー登録推進活動を行っています。メンバー6～7名で午前中から夕方17時まで、交代で外へ献血の呼びかけに出ながら、ルームでドナー登録の説明を行い、「チーム東京の会！」として一丸となって活動を行ってきました。

ところがこの1～2年活動に参加する説明員が減り、活動時間を午後からに絞ったり、説明員2名だけで行ったりする日が多くなり、ルームに協力する気持ちで続けて来た献血の呼びかけも人手が足らず出来なくなってきました。また、日本骨髄バンクが献血ルームに説明員を配置するようになり、今後の東京の会の活動場所の検討も必要になっています。

市役所田無庁舎で初めての登録会

そこで献血ルーム以外で1～2名の説明員でも出来ることはないかと考え、自分の住む西東京市で献血併行ドナー登録会が出来ないかと思ひ付きました。

3年前、ドナー助成制度実施の働きかけを行った際に、「西東京市ではドナー登録会が行われたことがなく、登録者はあまりいないのでは」と耳にしました。市役所で年に何回か献血が行われているのは市の広報誌に載っていますし、市民祭りの会場に献血バスが来ているのも毎年目にしています。



赤十字血液センター武蔵野出張所の献血バス配車責任者の方、西東京市献血推進協議会に相談、お願いをしてきました。

ドナー助成制度実施を強く推して下さった市議会議員さんのお力添えもいただき、日赤担当の方のご協力を得ることが出来て、2019年8月27日に西東京市役所田無庁舎で献血併行ドナー登録会が実現しました。

私にとっては登録会を企画運営するのは初めての経験でしたので、日本骨髄バンク職員の方にいろいろ教えていただきながら登録の声かけと説明を行いました。献血の主催が西東京青年会議所でしたので、献血を呼びかける青年会議所の若い人達と一緒に、東京の会か

らお手伝いに来てくれたメンバーが熱心にギフト・オブ・ライフを配って「ドナー登録しませんか？」と市役所入口で呼びかけてくれました。そのおかげで6名の方にドナー登録していただくことが出来ました。

(献血受付51名、採血43名)

講演会とタイアップした登録会が実現

ひとりふたりの登録でも上出来と思っていましたので6名の登録は本当にうれしく、そして更にうれしい展開がありました！登録者のひとは青年会議所のメンバーで、説明が終わった後で「11月23日に青年会議所で命の大切さや献血についての講演会を開くので、その日に今日のような献血とドナー登録会をすることは出来ますか？」と話しを持ちかけて下さったのです。

すぐその場で、献血バスのスケジュールを組んでもらえるようお願いすることを勧め、武蔵野出張所から来られていた日赤職員に話を繋ぎました。日本骨髄バンク職員も「日赤さんのOKが出たら協力してやりますから大丈夫ですよ！」と即答で、青年会議所の講演会に合わせて献血併行ドナー登録会を開くプロジェクトがスタートしました。

講演会会場近くに献血バスを停めてテントを張る場所の確保が難しく、事前準備は大変だったと思いますが、無事に11月23日講演会会場のコール田無に隣接する田無神社の駐車場をお借りして開催することが出来ました。献血して下さった人には、青年会議所のメンバーである下田農園さんの朝採れ野菜セット（立派なネギと葉付き人参と大きな生姜！）のプレゼントがあり、10名までの希望者には講演会の当日券がもらえる特典がありました。

当日はあいにくの雨で一日中降り止むことなく、コール田無や田無神社では市の「まちづくりフェス」が行われていたにもか



かわらず人出は少なく、献血の協力を呼びかけようにも通りかかる人がいなくて困った一日でした。献血受付19名、採血15名でしたが、東京の会からは私を含めて4名が参加してドナー登録の声かけと説明を行い、6名にドナー登録していただくことが出来ました。

心に響く素晴らしい講演会

講演会は献血受付終了時間の16時30分が開演で、私

は献血終了後の登録の確認作業を済ませてから隣のコール田無へ行き、講演会を途中から聴かせてもらいました。「いのちの授業～知ろう！！献血の大切さ！！～」というタイトルで、フリーアナウンサーの小林麻耶さんと女優で「彩の国けんけつ大使」の友寄蓮さんが講演。小林麻耶さんは、妹の麻央さんがガンの治療中にたくさん輸血を受けて、「献血して下さった方々のおかげで妹との大切な時間を持つことが出来ました」と話され、友寄蓮さんは高校2年生の時に急性リンパ性白血病になり、抗ガン剤治療して寛解になるまでの間、何度も輸血を受けた経験を話し、「100人以上の方々の献血と優しさのおかげで今、生きています！」と言葉にされました。

その言葉を受けて、小林麻耶さんは「妹、麻央は残念ながら亡くなりましたが、もし元気になって今生きていたら、友寄さんと同じように献血への感謝の思いを伝えたかったと思います」と涙ぐみながら、でも涙をこらえていつものすてきな笑顔で語られました。この講演会には100名定員のところ600名以上の申し込み

があったそうで、もっと広い会場で申し込みした人全員に聴いて欲しかった、心に響く素晴らしい講演会でした。



ひとつのドナー登録会が次の登録会開催に繋がり、そして更に12月19日に西東京市役所保谷庁舎で行われる献血にも併行してドナー登録会が出来ることになりました。新しいことを考えて行動に移して努力することの大切さを実感したこの1年です。たくさんの人が協力の手を差し伸べて下さったので、西東京市でこれからも継続して登録会を行い、既登録者がたくさん出てくるようになるまで頑張りたいと思っています。そしてこれが今後の東京の会の活動のひとつの形に育って行けばと願っています。

心のこもったご寄付ありがとうございました。(2019.10.16~11.15)

安藤壽昭さん 10,000円/村山 高さん 1,000円/中谷哲郎さん 10,000円/支倉美穂さん 5,000円
 澁江美加さん 2,000円/藤井靖郁さん 2,000円/鳥羽幸子さん 10,000円/高遠 勲さん 5,000円
 櫻井洋子さん 3,000円/奈良誓夫さん 3,000円/田井潤蔵さん 2,000円/柿崎義章さん 5,000円
 森川裕子さん 10,000円/笠 優子さん 7,000円/松下倫子さん 3,000円/大谷巻枝さん 1,000円
 平尾千栄子さん 2,000円/若木貞子さん 5,000円/ (株) マルゼン 4,715円/周 燕さん 2,000円
 周 アデラさん 2,000円/石見美由紀さん 5,000円/中川里枝子さん 5,000円/河村朝子さん 5,000円
 丸尾悦子さん 10,000円/及川耕造さん 35,000円/東京港南マリンロータリークラブ 151,651円
 コンサート募金箱 9,210円/小柴良介さん 2,000円/光江健太郎さん 1,000円/鳥羽雅行さん 3,000円
 匿名 10,000円

お寄せいただいたご寄付のうち、会費未納の会員からは会費(年3,000円)を差し引いて掲載させていただきました。

東京の会 「1月、2月定例会」 のお知らせ

1月25日(土)、2月15日(土) 午後5時30分より
 会場：こくみん共済coop東京会館
 (旧：全労済東京会館) 3階会議室
 ※JR新宿駅西口下車7分(新宿区西新宿7-20-8)
 ※地下鉄丸の内線西新宿駅下車1番出口徒歩2分
 青梅街道新宿警察署向かい・「キャン☆ドウ」角入り右側
 ※3月定例会予定・3月28日(土) 午後5時30分より

3月会報発送 「おりおり」のお知らせ

2月の「おりおり」はありません！
 会報が隔月刊となったため、発送作業も奇数月のみとなります。
 3月7日(土) 13時00分より
 ※13時までは品川運輸さんが使用されています。13時以降にお越し下さい。
 場所：品川運輸・4階会議室(品川区東大井2-1-8)
 JR大井町駅徒歩8分・京浜急行鮫洲駅徒歩2分
 ※今お読みになっている「東京の会通信」を約500部折って封入して発送します。簡単な誰にでも出来る作業です。いつも人手が足りません。どうかご協力を。
 ※2020年5月「おりおり」予定・5月2日(土) 13時00分より

新しい方大歓迎です。お気軽においで下さい。お待ちしております。

患者家族電話相談
白血病フリーダイヤル

やまい こく ふ く
0120-81-5929
 毎週土曜日10:00~16:00

※第2・4土曜日は血液専門
 医も相談に応じます。
 ※医師に言えない悩み事など
 もどうぞ。

チャリティコンサート「響」は今年も盛会

11月4日、東京・文京区の求道会館にて、骨髄バンクチャリティコンサート「響」が開催されました。求道会館は仏教の講堂として建てられた歴史的建造物であり、コンサートのタイトル「響」に相応しく音響の良い会場です。当日は天候も良く正にコンサート日和で、14時30分開場予定でしたが、早くからお客さまが集まり、少し開場を早めた程でした。コンサートの様子や感想をお二人の方に寄稿いただきましたので掲載します。

演奏者が絶賛する手造りのグランドピアノ

当日準備のため早く会場入りしましたら、すでに演奏者3人は音合わせの練習をしていました。耳にしたピアノの響きに感心しました。私は家でCDをかけながら家事をしていますが、生の良い響きを聞きながらの快適さ、嬉しさに準備の仕事が捗りました。

さあ開演の午後3時、ヴァイオリンの三戸素子さん、チェロの小澤洋介さん、ピアノの高田匡隆さんが登場。先程の練習姿とは違って素晴らしいフォーマル姿。ヴァイオリンの三戸素子さんのブルーに銀色のドレスに私は思わず心の中で素敵！と叫んでしまいました。

曲はドビュッシー・モーツァルト・ドヴォルザークの3曲。1曲目は流れるようなメロディー。2曲目のモーツァルトは親しみやすい曲。ドヴォルザークは40分を超える大曲で、3人は汗をかいての熱演でした。曲の終わり、ヴァイオリン、チェロのお二人の弓が高く上がると大拍手となり素晴らしかったです。ありがとうございました。



求道会館に設置されているピアノは、ヤマハの最高級のグランドピアノ「YAMAHA S4A」で、すべて手造りの由緒あるピアノと伺いました。演奏者の高田さんが求道会館の方に「丁寧に手作りされた素晴らしいピアノですね！大変弾きやすく音の響きが良く名器だと感じました」と語られ、プロの目や感性のすごさを実感するとともに、会館を運営されている方が音楽に造詣が深いのではと想像しました。

「ピアノ三重奏の夕べ」「バラのかおりのコンサート」から「響」にタイトルは変わりましたが今年で27回目。当日券で入場の方もいらして、120名を超える盛会なコンサートとなりました。

2曲目が終わり休憩後にミニシンポジウムとして、ともに20代の骨髄提供者の男性と骨髄移植を受けた女性のお話がありました。病気に関する生の声を初めて聞いた方も沢山いらしたことと思います。その方々の骨髄バンクへの関心が深まることを希望しています。

来年も「響」の良いコンサートを期待しています。

(竹谷内 紀子)

今年も素晴らしい演奏でした！

今年のコンサートは、「ドビュッシー/ピアノ三重奏曲ト長調」から始まりました。最初のピアノが印象的で、途中の弦をつまむ所も良かったです。優しく流れるメロディーが、ほんわかした感じに会場を包み込み、うっとりとした気分になりました。次の曲は「モーツァルト/ピアノ三重奏曲第5番 ハ長調 KV548」で、美しいメロディーが楽しくさせてくれ、幸せな気分になりました。

休憩をはさみ、骨髄提供ドナーの成岡義斗さんと、骨髄移植患者の高橋真菜美さんのお話がありました。毎回思いますが、患者さんご本人はもちろん、ご家族の方も大変な思いをされたのだと感じました。私たち骨髄バンクを支援する東京の会も、1人でも多くの方にドナーとなつていただけるよう努力すると共に、骨髄バンク自体の普及活動も進めていかなければ、と改めて思いました。

そしてコンサートは、プログラム最後の曲「ドヴォルザーク/ピアノ三重奏曲第3番 ヘ短調 作品65」となりました。悲しげな旋律ですが、壮大な感じがして、最後の曲に相応しいと思いました。三戸素子さん(ヴァイオリン)、小澤洋介さん(チェロ)、高田匡隆さん(ピアノ)の演奏を、心の底から堪能出来て本当に良かったです。

3人の演奏者がステージから去っても会場の拍手は鳴り止まず、もう一度ステージに戻って来て、アンコールの曲を演奏して下さいました。アンコールは、サイモンとガーファングルの「明日に架ける橋」でした。ピアノ三重奏ヴァージョンは、普段から聞き慣れているオリジナルとはまた違って、新鮮で良かったです。

最後に、毎年チャリティで演奏していただいている三戸さん、小澤さん、高田さんに感謝すると同時に、求道会館へお越し頂いたお客さまにも、心より感謝致します。本当に有り難うございました。(笠原 誠)



スノーバンク2019開催 ～11月の代々木公園に雪が降る～

11月9日、10日の2日間に渡って、代々木公園で東京雪祭SNOWBANK PAY IT FORWARD×HEROS FESTA2019が開催されました。このイベントは、骨髄移植を受けたプロスノーボーダー荒井DAZEさんが創設し、スポーツ、ミュージック、アートを通じて若い世代に献血・骨髄バンクの必要性を伝え、行動のきっかけを作る取り組みとして毎年開催されています。

今年の目標は献血222名、ドナー登録111名。東京の会のメンバーが日赤、関東近隣の骨髄バンクボランティアの方々と一丸となり活動しました。説明員として参加した2名の方からの報告です。

若いパワーをもらいました



スノーバンクは年ごとに進化・拡大し、すごい人数が集まっていました。献血バスも4台で、千葉の会、埼玉の会の皆様との協同活動です。イベント初日の9日、私は新田雅子さんとドナー登録説明員、大塚礼子さんは子供向けのおもちゃ釣りコーナーを担当しました。

午前中はそれほど忙しくなかったのですが、昼過ぎにたくさん登録希望者が押し寄せる時間があり、3時過ぎにはラグビーの日本代表の選手3人と柔道の井上康生さんが来て、ドナー登録してくださいました。お1人だけ筋肉が多すぎてBMIオーバーで登録できず残念でした。若い方々が熱心に出向いて下さるのですが、睡眠薬を常用している方や、鼻ピアスの方は骨髄提供できないため、登録に至らずとも残念でした。

初日の登録は39名で、翌日に期待して終了しました。いつも思うのは、このイベントに参加すると若いパワーをもらえるという事です。(竹崎 恵子)

有名アスリートもドナー登録

筆者は去年来場者の一人としてこのイベントに参加し、若い方の意気込みや骨髄バンクドナー登録への積極的な姿勢に驚きました。その時、「来年は資格を取得して説明員として参加する」と決意し、今年はそれが実現して感慨深い思いでした。



私は2日目の10日に参加しました。前日は登録者が39名で目標の111名を達成できるか不安でしたが、開始

早々から受付には列ができ、多くの方に献血や登録を行っていただき、説明員総出で対応しました。途中、メインステージでのイベントやスノーボードエリアでのセッション時には来場者が減る時間がありましたが、イベント終了後にはまた、多くの方が受付に来ていただきました。



毎年このイベントに来場されている方も多く、「骨髄バンクへの登録はいかがですか？」と尋ねると「以前登録しました」と回答される方が多く、若い世代の行動に驚かされる場面もありました。



今年のスノーバンクはアスリートの社会貢献活動を促進する「HEROs」とタッグを組んで開催され、有名アスリートが多数参加されました。アスリートの方も登録ブースに足を運び、説明を熱心に聴いて登録までしていただきました。骨髄バンクのボランティアやスノーバンクのボランティアの方々の啓発活動、「HEROs」スタッフの方々の呼びかけにより多くの方に献血や登録をしていただき、2日間で献血実施数 236名(受付数268名)、骨髄ドナー登録数112名となり、目標を達成しました。

社会的に影響のあるアスリートの方の献血や登録は、若い世代の方に行動のきっかけを与える良い機会だと思います。この活動を多くのメディアを通じて広く伝えて欲しい、そしてより多くの若い世代の方に献血や登録に足を運んで欲しいと感じました。

来年10周年を迎える「東京雪祭 SNOWBANK PAY IT FORWARD 2020」は、2020年11月に開催が予定されています。是非、皆さんも足を運んでみてはいかがでしょうか？(光江 健太郎)

編集者 雑記



▼筆者が勤務する山梨県で、先月、脳死と判定された6歳未満の女児の臓器摘出手術が初めて行われたと報道されました。過去に60代男性の臓器提供が公表されていて、県内では2例目となります。女の子のご両親は「突然のことで、つらい決断でしたが、娘の体が誰かの中で生きていくことは、家族の心の支えでもあります」とコメントを出しました。娘さんの回復を祈っていたであろうご両親が、臓器提供の決断に至るまでの苦悩や悲しみはいかばかりかと思わざるを得ません。

▼かつて臓器提供を受けた人は「ご両親は多くの悩みや葛藤の末に臓器の提供を決断してくれたのだろう」とその心情に思いをはせ、別の臓器移植経験者も、6歳未満の臓器提供が少ない現状に触れながら「親御さんとしても苦しい決断だったと思うが、移植しか望みがない待機者にとっては救いになっただろう」と語っていました。

▼ドナーとなった女児は低酸素脳症で入院していて、厳しい基準の中で脳死判定が行われ、移植ネットとコーディネーターから家族に臓器提供について丁寧な説明があり、家族は一定の時間をかけ、わが子が生きて証を残したい、との思いを固めたそうです。今回は、心臓・肝臓・腎臓・小腸などが、10歳未満から20代の男女5人に提供され、移植手術が行われました。女の子の体の一部は「お姉さん」や「お兄さん」ら5人の人生と共にこれから歩み続けていくのです。

▼厚生労働省の臓器移植委員会委員などを務めた貫井英明山梨大名誉顧問は、山梨日日新聞へのコメントで、6歳未満の場合は臓器移植の意思を示すことがで

きない点を踏まえて「両親は愛するわが子に関して非常に難しい判断を迫られ、精神的な負担は計り知れない。尊い決断をされた家族へのケアは今後も欠かせない」と指摘しています。現在移植を希望する待機者は全国に1万4千人近くいる一方、1年間に移植を受けられる人は2%ほどです。脳死移植でしか救えない子どもなど待機患者を救う制度は、今回のご両親の祈りのような深い思いに支えられています。

▼内閣府の2017年の世論調査では、免許証などに臓器提供の意思（する・しない）を記入している人は12.7%にとどまり、家族などと臓器提供や移植について「話をしたことがある」も35.4%と少ない状況です。誰しも想像したくはないでしょうが、不慮の事故や病気で、自分や家族が脳死状態になることはあり得ます。その時どう判断するか、身近であったこのような「命のリレー」に触れながら意思表示について家族や大切な人と話し合う機会をもってはどうでしょうか。

▼血液疾患の治療法である骨髄移植は、脳死後の臓器移植とは違い健康なドナーからしか提供を受けられません。健康な体を持ち骨髄バンクに登録し、見知らぬ誰かのために骨髄提供するという「命のリレー」が毎月約100件、年間1,200件以上行われ、患者さんの生きる希望になっています。患者さんがドナーに感謝すると同時に、提供したドナーにとっても、命を助けることができたシアワセを実感できる体験です。

▼骨髄提供時のドナーの負担を軽減するために、骨髄バンクでは企業に対するドナー休暇制度導入の要請に力を入れています。全国のボランティア団体では、地域の行政に対してドナー助成制度導入の要請を積極的に行い、東京都では23区とほとんどの市がドナー助成制度を導入しました。今後も、健康に暮らしているドナーが負担なくいつでも骨髄提供できるよう、東京の会としても運動を続けてまいります。(A)

東京ドナー登録会 予定(1月・2月)

1/10(金) 日本赤十字社 本社(港区)

1/31(金) 都庁(新宿区)

1/11(土) ぼっぼ町田(町田市)

2/26(水) 北区役所(北区)

ご寄付と会費の納入、そして絵はがきや書籍・テレホンカードの購入は郵便振替にてお願いいたします。皆様からの善意をお待ちしております。

ボランティアの運動にも資金が必要です。 東京の会に活動資金のカンパを!

郵便振替口座番号 **00100-1-555195**

他銀行から振込みの場合 ゆうちょ銀行(9900) / 〇一八支店(018) 普通口座No.4180512

加入者名義 **骨髄バンクを支援する東京の会**